

*** 今日の健康(4月)***

<麻疹と予防接種>

(1)麻疹の概要

麻疹は子供にとってはもちろん、免疫のない成人でも感染し発病すれば、高熱が1週間前後も続くだけでなく肺炎、脳症などの合併症の危険性が高く、現在の医療をもって死に至ることがあり、また死亡だけでなく後遺症としても発育障害、失明、難聴などになることがある重症な感染症です。

麻疹ウイルス感染約10日後、中等度発熱及びカタル症状が始まり、コプリック斑(口腔内の頬粘膜に形成された白斑)が出現した翌日頃に、発疹が出現し、発熱はその後さらに数日間続きます。発疹は解熱後に色素沈着を残して消退します。

麻疹ウイルス感染により、免疫機能低下を来すため、易感染性となりやすく肺炎(二次感染)や中耳炎を合併しやすいことがわかっています。脳炎の合併率は、2,000~3,000人に1人で、またSSPE(亜急性硬化性全脳炎)の発症は48,000人に1人という報告があります。

(2)予防接種

世界各国ではWHO(世界保健機関)によるEPI(拡大予防接種計画)の推進によってワクチン接種の徹底をはかっていますが、日本の子供たちの接種率は低く、国際的に「日本は麻疹の輸出国」などと言われ問題となっています。

麻疹ワクチンは、現行のワクチンの中でも発熱率の比較的高いワクチンで、ウイルスが体内で増殖する期間(接種後5~14日)の後に約20%に37.5度以上、数%に38.5度以上の発熱、10~20%に麻疹様の発疹が認められることがあります。いずれも心配のいらないことがほとんどです。発熱の持続期間は通常1~2日で、発疹は少数の紅斑や丘疹から自然麻疹に近い場合もあります。稀に発熱に伴う熱性けいれん(200~300人に1人)をきたすことがあります。また極めて希ですが脳炎・脳症(100万~150万人に1人以下)、SSPEの発症(100万人に0.5~1.0人)が知られています。

(3)予防接種の効果

麻疹ワクチンの効果は非常に高く、1回の接種で95%の抗体獲得率があります。効果の持続期間は6日後からほぼ一生有効とされていました。しかし、ワクチン接種を受けたものの中で、その後に麻疹に罹患するものが数%あり、この中には、ワクチンの保存やその他の条件が関与して、ワクチンそのものの力価が低下していたために、ワクチンの効果がなかった場合と、ワクチンによって獲得された免疫が持続しなかった場合とが含まれています。

また、感染症サーベイランスに報告された麻疹患者のうち麻疹ワクチン接種歴のあるものは2%以下であり、またSSPEも減少しており、これらのことから麻疹ワクチン接種が有効であることがわかります。

前澤クリニック 内科 小児科 0422-30-2861

天文台通!多摩信用金庫のななめ裏